

TV 報道検証【報道特集】 報告書

テレビ局： TBS	番組名：報道特集	放送日： 2018 年 12 月 22 日
出演者：金平茂紀、日下部正樹、膳場貴子、日比麻音子		
<p>検証テーマ： ゴーン容疑者”機密費”から支出か、オープニング</p> <p>海上自衛隊の航空機が韓国海軍から火器管制レーダーを照射される</p> <p>USTR が日米貿易交渉の方針を発表、アメリカでガバメントシャットダウン</p> <p>パレスチナ自治政府職員が日本の町内会を視察、【特集】 陛下直筆のグリーティングカード</p>		
<p>報道トピック一覧</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ゴーン容疑者”機密費”から支出か ・ 海上自衛隊の航空機が韓国海軍から火器管制レーダーを照射される ・ USTR が日米貿易交渉の方針を発表 ・ アメリカでガバメントシャットダウン ・ パレスチナ自治政府職員が日本の町内会を視察 ・ 岐阜県で相次ぐ豚コレラが県境を越える ・ 新潟県糸魚川大火から 2 年 ・ 静岡県伊東市の伊豆シャボテン動物公園でカピバラがゆず湯に ・ 世田谷一家殺害事件から 18 年 ・ 茨城県つくば市で不審火が相次ぐ ・ 「串カツ田中」 フランチャイズ店で盗撮か ・ 【特集】 陛下直筆のグリーティングカード ・ 【特集】 被災庁舎が語るもの ・ スポーツ報道 		
<p>放送法第 4 条の見地からの検討・検証および該当トピックの報道内容要旨</p> <p>・ ゴーン容疑者”機密費”から支出か：結論→特に問題なし</p> <p>電撃的な三度目の逮捕から一夜が開けた今日の東京拘置所では朝早くからカルロス・ゴーン容疑者の弁護人が接見を訪れるなど慌ただしい動きが見られたこと、三回目の逮捕容疑となったのは日産に損害を与えたという特別背任であり東京地検特捜部が指摘している点として、1 つ目はリーマンショックがおきた 2008 年にゴーン容疑者の資産管理会社が指摘に運用していた金融派生商品で生じた多額の評価損のうちおよそ 18 億 5000 万円の支払い義務を日産に負わせようとした疑いと、2 つ目はこの支払い義務を戻すために協力してくれたサウジアラビア人の知人が経営する会社に対しアラブ首長国連邦にある日産の子会社から 2009 年からあわせて 1470 万ドルを支払い日産に損害をあたえたということの二点が伝えられた。</p> <p>このトピックに当てられた時間は 215 秒で、放送法上の問題は特に見られなかった。</p> <p>・ オープニング：結論→特に問題なし</p> <p>番組の冒頭で金平キャスターが「ご覧のように日産のカルロス・ゴーン前会長の身柄を巡って水面下でめまぐるしい動きが今週ありました、内外に納得行く捜査手続きがきちんと取られることが重要です。特集は天皇家にま</p>		

つわる独自の調査報道です。ぜひともご覧ください。」とコメントしていた。このコメントに当てられた時間は 17 秒で、放送法上は特に問題は見られなかった。

・海上自衛隊の航空機が韓国海軍から火器管制レーダーを照射される

海上自衛隊の航空機が一昨日日本海で韓国の駆逐艦から射撃管制用のレーダーを照射されたこと、レーダーの照射は短時間ではなく一定時間続いていたことが防衛省への取材でわかったとのが報じられた。またこの問題について、一昨日石川県の能登半島沖で海上自衛隊の哨戒機が韓国海軍の駆逐艦から火器管制レーダーの照射を受けたものであること、韓国海軍関係者は「遭難した北朝鮮籍の船の捜索のため艦艇の全てのレーダーを作動させたところ、その範囲内に哨戒機がいるのを把握した」と説明していること、この韓国側の説明について防衛省は今日「火器管制用のレーダーは広範囲の捜索に適するものではなく遭難船舶を捜索するためには水上捜索レーダーを使用するのが適当だ」と反論し遺憾の意を示したことが報じられるとともに、火器管制レーダーは攻撃目標の正確な位置を把握し、追尾するために使われるものであることが伝えられた。

また、こうした中、韓国統一省は今日、韓国の駆逐艦が海上自衛隊の哨戒機にレーダーを照射したのと同じ今月 20 日、日本海の公海上で北朝鮮の船舶を発見し船員 3 人を救助一人の遺体を収容したと発表したこと、船員と遺体は今日午前板門店で北朝鮮側に引き渡されたとのことが報じられた。

このトピックに当てられた時間は 111 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・USTR が日米貿易交渉の方針を発表：結論→特に問題なし

USTR アメリカ通商代表部は 21 日、日本との新たな貿易協定の交渉に向けた方針を発表し、物品の貿易の他、知的財産、投資などを含む 22 項目の協議分野を盛り込み、この中で意図的な円安誘導を防止するための為替条項を導入したい考えも表明しているとのこと、日本は交渉の中心は物品の貿易で FTA、自由貿易協定は目指さない立場だがアメリカ側の方針からは事実上の FTA に向けて幅広く協議したい意向が鮮明であり、この方針を持ってアメリカ政府は来年 1 月下旬に交渉入が可能になるとのことが伝えられた。このトピックに当てられた時間は 62 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・アメリカでガバメントシャットダウン：結論→特に問題なし

アメリカ連邦予算の一部期限が切れる 21 日に議会では新たなつなぎ予算をめぐる協議が断続的に行われたこと、焦点は予算の承認権限を持つトランプ大統領が強硬に求める国境沿いの壁の建設費用を盛り込むかどうかだったが上院で野党民主党が反対し議論は膠着しつなぎ予算案は可決できず日本時間の午後二時過ぎ政府機関の一部が閉鎖される事態になったとのこと、政府機関の一部閉鎖は今年三度目で官公庁の他国立公園なども閉鎖されますが壁の予算をめぐる議会とホワイトハウスの溝は深く正常化への道筋は不透明であるとのことが報じられるとともに、トランプ大統領の「民主党が賛成しないからどうしようもできない。」というコメントが取り上げられた。

・パレスチナ自治政府職員が日本の町内会を視察：結論→特に問題なし

アメリカやイスラエルとの関係で揺れる中東パレスチナ自治区で難民キャンプの環境の改善を目指す政府職員が今月、来日し日本の町内会を視察したとのことが報じられた。このトピックに当てられた時間は 154 秒で、放送法上は特に問題は見られなかった。

・【特集】 陛下直筆のグリーティングカード

陛下直筆のグリーティングカードを中心に天皇家への独自調査について VTR が取り上げられていた。

【VTR 1】

ナレ「先月 15 日、天皇皇后両陛下は、北海道厚真町を訪問された。今年 9 月、震度 7 の激しいゆれによる激しい土砂崩れで、36 人が亡くなった町だ。」

陛下「どなたが亡くなりました？」

女性「両親が亡くなりました。」

陛下「あーそうですか」

ナレ「自然災害がたびたび猛威を振るった平成の 30 年。その都度行われる被災地訪問、陛下の強い意向によるものだ。」

ナレ「自らの意思で行動する象徴天皇の姿。その原点にあるのは、1 人のアメリカ人女性との出会いだった。」

ナレ「私たちは今回、その女性の故郷で陛下との深い関係を示す貴重な資料を見つけた。テレビによる取材はこれが初めてだ。」

ナレ「陛下直筆の英語で書かれたカード。そこには普段明かされることのないプライベートな一面があった。」

【VTR 2】

ナレ「エリザベス・グレイ・ヴァイニング。1946 年から、50 年まで 4 年間、家庭教師として皇太子時代の陛下に英語を教えた人物だ。」

ナレ「学習院中等科での授業とともに、週に数回、個人レッスンも行ってた。どんな経緯で戦勝国であるアメリカの家庭教師がつくことになったのか。」

ナレ「JNN が、1985 年に、ヴァイニング夫人に行った貴重な単独インタビューの映像が残されている。」

ヴァイニング夫人（翻訳・字幕）「1946 年に、昭和天皇が皇太子にアメリカ人家庭教師をつけたいと考えられたのです。多くの方が占領軍のアイデアだと考えていましたが、そうではありませんでした。」

ナレ「自宅には、陛下や昭和天皇の写真が飾られていた。陛下の父である昭和天皇はかつてこう語っていたとされる。」

昭和天皇（吹替）「自分が今までにしたことで成功したことがあるとすれば、それはヴァイニング夫人を招へいたことだ。」

ナレ「神格化された存在であった天皇は、戦後新たに国民統合の象徴になった。大きく境遇が変わる中、皇太子時代の陛下はどのようにアメリカ人の家庭教師を迎えたのだろうか。」

男性「中等科はそっから向こうですよ。中等科と仮御所は少し離れてたかもしれないですね。」

ナレ「陛下の学習院初等科からの同級生、明石元紹さん。ヴァイニング夫人が来日した当時、学習院中等科は東京小金井にあった。陛下はここで暮らし、学ばれている。」

明石氏「ヴァイニング先生も他国から来たっていうか、戦勝国からきた婦人ですからね、あの、僕らと同じように、そんなにすぐ、なんていうか、従わなかったとは思いますが、警戒みたいなものはあったでしょうね。その性格的にはね、非常にまじめで物事を真剣に考える性質のお子さんでしたから、最初は嫌かと思って迎えたかもしれないけど、なつくようになったんじゃないですかね。」

ナレ「家庭教師についたばかりの頃、ヴァイニング夫人は陛下についてこんな印象を持ったという。」

ヴァイニング夫人（著書・吹替）「陛下と接することが、度重なるにつれて、陛下が何事に付けても、侍従の後見をお求めになるのに、私は気づいた。どんな簡単な質問でも、侍従たちの助けを借りずにご自分で答えることが

おできにならないらしかった。」

明石氏「周りが指示をするというか、行動に対しての責任は、逆に周りが持ってましたからね。それが普通だと思っちゃってたんですね。ところが例えば野村東宮大夫が病気になって入院されて、それに対してお見舞いにいらっしゃいましたかって、ヴァイニングさんが言ったところが、誰も行けと言ってないから行ってませんと答えたことに大変びっくりして」

ナレ「ヴァイニング夫人はこの時、殿下がしたいと思ったら、すればよいし、人に言われてするものではないでしょうと、話したという。明石さんはこうした経験が陛下の自ら考えて行動するという出発点になったではと話す。」

ナレ「織田正雄さんも、陛下と机を並べた学友の一人だ。ヴァイニング夫人が来日して3年目、中等科3年の時の授業をこう振り返る。」

織田氏「たまたまあの、国連ですね、世界人権宣言の批准がなされて、逐一第一条から始まってですね、えー中身についての授業が、あったんですね。その内容がね、とにかく世界の人々はみな平等であるということをやまず最初にね、挙げていますからね、それをまあ皇太子にはぜひ、知って欲しかったと思いますね。」

ナレ「翌、1949年、6月。ヴァイニング夫人は陛下の成長を確信する出来事があった。連合軍の最高司令官マッカーサーとの会見だ。15歳だった陛下が英語で25分ほど、臆することなく対応されていたことをヴァイニング夫人は明かしている。」

マッカーサー（吹替）「初めまして殿下。よくいらっしゃいました。」

陛下（吹替）「はじめまして元帥。あなたにお目にかかれてうれしく思います。」

ナレ「当初は、尋ねられたことに答えられていただけの陛下だったが、途中にマッカーサーに質問を投げかけられたという。」

陛下（吹替）「元帥は何かスポーツをおやりですか？」

ナレ「ただひとり会見に立ち会ったヴァイニング夫人はこの時のことについて、こう記している。」

ヴァイニング夫人（著書・吹替）「敗戦国の皇帝の子息が、昨日までの敵の頭目に面と向かいあって、おめも臆しめせず、少年らしい威厳を保って、率直に受け答えしている姿を見た。」

「この会見こそ、殿下の人的成熟への途上の一里塚だった。」

ナレ「ヴァイニング夫人は日本を去る前の最後の授業で、教室の黒板にこう書いている。」

ヴァイニング夫人（吹替）「Think for yourself（自分自身で考えなさい）」

明石氏「皇太子殿下はね、ヴァイニングさんが主張した自分のことは自分で管理し、自分でもって活動すると、それも思っているだけでは、ダメなんだと。それを真面目に受け止められて、今日に至るまで陛下のあったんじゃないかと僕は思ってますけどね」

ナレ「国民とともにある。この陛下の強い意向は度重なる被災地訪問の形であらわされている。」

ナレ「太平洋戦争の激戦地サイパンや、パラオ、ペリリュー島への訪問。こうした慰霊の旅もまた、戦争の惨禍を忘れてはならないとの思いを行動で示されたものだ。」

羽毛田信吾元宮内庁長官「自ら活動なさることによって、その訴えていらっしゃることが僕は、あるような気がするんです。普通の外国訪問ですと、まず政府がまずイニシアチブをとってやってくと言うのが、普通でしょうですけども、パラオの場合も、サイパンの場合も、これはやはり陛下御自身が日本人だけではなくて、その戦争の外国の人たちも含めた犠牲者を現場に言って、その弔いそしてそのことを通じて、平和の尊さを訴えたいというお気持ちは強いものがありましたね。陛下の思いがいわば、前面にでた外国訪問だったというのは、思いますね。」

ナレ「陛下とヴァイニング夫人の交流は、教師と教え子の関係を離れても続いた。」

ナレ「ヴァイニング夫人の生まれ故郷、アメリカペンシルベニア州郊外にあるハヴァフォード大学。この大学の資料室には、夫人が寄贈した数多くの遺品が眠る。今回その一部の撮影がJNNに特別に許可された。」

ハヴァフォード大学 ホロウィッツ・サラさん（字幕）「ヴァイニング夫人のコレクションで彼女の死後、大学に寄贈されたものです」

ナレ「ヴァイニング夫人が生前保管していた日本での思い出の写真や、皇室から送られた品々。資料数は明らかにされていないが、少なくとも数百点以上はある。これは皇居に入るための入構証」

入構証（吹替）「マッカーサーの命を受けて、許可を与える。」

ナレ「晩年まで大切に保管していたことがわかる。これは陛下直筆のグリーティングカード。新年の挨拶状だ。ヴァイニング夫人との深い関係を示す陛下直筆の資料がテレビで報道されるのは、初めてだ。」

ナレ「陛下の父親としての表情が文面からうかがえる。1962年のカードには、」

グリーティングカード（吹替）「私たちの幼い息子はもう、10人のインディアンなどの英語の歌も歌うことができます。最も、息子はその歌詞の意味は分かっていないと思いますが。」

「義理の兄から犬をいただきました。息子はよく、その犬のものまねをします。」

ナレ「アキヒト。ミチコのサインもある。」

ナレ「陛下の姉、池田敦子さんの夫から皇太子さまが遊んでいる写真が添えられていた。その翌年のカードには、」

グリーティングカード「息子は来年の春、幼稚園に入園します。時間がたつのはとても早いですね。」

ナレ「秋篠宮様が生まれた1965年のカードには、家族4人で、和やかなひと時を過ごす様子が記されている。」

1965年のカード（吹替）「生まれたばかりの次男はすくすくと育っています。食欲旺盛です。妻は育児で忙しくしています。」

ナレ「皇太子さまのこんなエピソードも紹介されている。」

1965年のカード（吹替）「長男は今、葉山にいます。ずっと山登りに興味があったので、今回の葉山滞在では、丘に登るようです。」

ナレ「これらのカードは少なくとも25年以上、送られ続けた。幼いころの皇太子さまに庭で本を読み聞かせている美智子様。陛下自ら撮影した貴重なものだ。これもヴァイニング夫人に宛てて送られていた。」

ナレ「二人の深い絆を象徴する場面がある。ヴァイニング夫人の帰国から9年、陛下と美智子様の結婚式が開かれた。この時外国人で唯一、ヴァイニング夫人だけが、招待されたのだ。」

ナレ「1987年。アメリカ訪問の際には、」

陛下（翻訳・字幕）「とてもお元気そうでよかったです。」

ナレ「交流は長く続いた。」

ミシェルさん（翻訳・字幕）「ここはヴァイニング夫人が晩年を過ごした場所です。」

ナレ「ペンシルバニア州、フィラデルフィアの郊外にある高齢者施設。ヴァイニング夫人は1999年に亡くなるまで、ここに身を寄せていた。身の回りの世話をしていた女性がいる。」

ヘレラさん「いつも机で何か書いているような人で、そうでない時はソファで本を読んでいた。すごく物静かな人でした。日本の偉い人を教えるのは、どんな感じだったか聞いて見たら、こうしていました。『アイラブザ、リトルボーイ』と」

ナレ「1987年に陛下に再会した時、ヴァイニング夫人はかつて授業をしていた時のあるエピソードを明かしていた。」

ヴァイニング夫人（翻訳・字幕）「クラスの皆一人一人に大人になったら何になりたいかを聞いたことがあります。」

皇太子さまは『私は天皇になります』と子どものころから知っていたのですね。」

ナレ「幼いころから、天皇になることを宿命づけられた陛下。戦後の新しい皇室を担う若き皇太子の世界の窓を開いたのは、ヴァイニング夫人だったのかもしれない」

この VTR を承けてスタジオでは以下に朱記したやり取りが繰り広げられた。

膳場「取材にあたった TBS 社会部宮内庁担当の増尾記者です。あの若き日の陛下に大きな影響を与えたヴァイニング夫人ですけれども、もともとはどんな人物だったのでしょうか」

増尾記者「はい、あのヴァイニング夫人ですね、来日する前は児童文学の絵本作家という顔も持っていたのですね。で、あの、キリスト教系の一派でありますクエーカー教の敬虔な信者としても、知られています。このクエーカー教なんですけど、徹底した平和主義というものが根幹にありまして、あのヴァイニング夫人、陛下の家庭教師に選ばれた際にも、戦後日本が平和の道を歩むと決めたから、私もこの大役を受けたんだと、そう明かすほどにですね、平和への思いというのは、非常に強く持っている方でした。」

日下部「あのヴァイニング夫人が寄贈した資料、これすべて公開されてるわけじゃないんですよね。」

ナレ「そうなんです。今回アメリカハバフォード大学に取材に行きましたが、ここにはですね、まだまだ、陛下とヴァイニング夫人との関係を示すですね、貴重な資料というのが残されています。具体的にはですね、陛下と長年にわたる手紙のやりとり。また美智子様との手紙のやりとりであったりですとかね。あの当時の吉田総理との交わした手紙というの、残されているんですね。まあただ、ヴァイニング夫人の遺言によってですね、これらはまだ、未公開の状況になっております。」

金平「その来年のね、生前退位を控えてですね、現在の天皇陛下の、その平和への思いの源流の一つが見たような思いをしたんですけどもね、そのあたりですね、取材していかがですか」

増尾記者「そうですね、あの、陛下は天皇になってからのこの 30 年だけでもですね、国内、国外、問わずですね、慰霊の旅っていうのを長く続けてこられました。で VTR にもありましたけど、これらというのは通常の外国訪問とは違って、いずれも陛下の自身のもので、強い意向が反映されたものだったんですね。あの今年 8 月には、天皇陛下としては最後となる全国戦没者の追悼式にも参列されまして、この時のお言葉ですね、『戦後の長きにわたる平和な歳月に思いを致しつつ』とこういった新しい一文を加えるなど、非常に平和への思いというのをよく、感じました。あの自らで考えて、行動するその象徴としての姿というのがまさに陛下が形作られたものであってですね、そしてその平和というこの価値観がですね、ヴァイニング夫人と陛下との間で、共有されてきたからこそ、二人の長くて深い交流というのが続いたのかなあとも思いました。」

この特集に当てられた時間は 1275 秒で、放送法上は特に問題は見られなかった。

最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックの報道内容要旨

特になし

検証者所感

今回の報道特集は全体的に問題の見られないものだった。